

医変更はもちろん可能です。主治医制といっても、カンファレンス等により診断、治療方針については上級医師を含めた複数の医師により決定されるので、医師によって方針が異なることはありません。医療を受

ける際に不安、心配のないように何なりとご相談ください。患者様に満足される充実した医療を提供していきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。



呼吸器外科が新設されました

呼吸器外科部長代理 菅谷 将一

平成19年(2007年)4月に中部ろうさい病院に呼吸器外科が新設されました。呼吸器外科の菅谷将一と申します。着任から平成19年12月までの9ヶ月間で呼吸器外科手術44例(肺癌20例)を行うことができました。

当科では、肺、縦隔、胸壁疾患の外科治療を専門に診療をおこなっています。具体的には、近年増加を続けている肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、肺嚢胞症、自然気胸などの診療を行っています。

原発性肺癌は日本でも年々増加の傾向を示し、1993年には男性では胃がんを抜いて悪性腫瘍の中で死亡原因の第1位(21.6%)となりました。女性においても増加傾向は同様であり、1998年には、男女合わせたがん死亡原因の第1位となりました。2005年には、肺癌による死亡数は62,058名となっており、今後さらに増加し15~20年後には、

現在の約2倍~2.5倍の死亡数が予想されています。治療法は通常TNM分類による病期に基づいて決められ、臨床病期I期、II期、III A期までを通常手術対象にしています。近年、CTなどの画像診断の普及により、従来の胸部単純X線では指摘困難な薄い2cm以下の末梢小型肺腺癌が診断される頻度が増加しており、このような症例は手術により十分根治可能となっています。

その他、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、肺嚢胞症などの呼吸器外科領域の疾患のことでお悩み・ご不明な点があれば何でもお尋ね下さい。



★「フィリア・レター」は、「中部ろうさい」病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。